

医療のトータルソリューション

Total Solution Provider for Medical Treatment

巻頭言

幅広いニーズに応える医用ソリューション

Solutions for Wide Range of Needs in Medical Field

今、わが国は先進国中で先頭を切って高齢化が進行しています。その一方で臓器移植、創薬及び再生医療などの最新治療技術が目覚ましい発展を見せ、治療がますます高度化しています。その中で、治療に必要な画像情報を収集し処理する画像診断技術と、各種の患者情報や検査情報を関連付けて統合し、モバイルを含む病院内外のネットワーク環境で医療関係者に提供するIT（情報技術）は、その重要性を増しています。

最新治療技術が非常に速い進歩を見せるなか、MRI（磁気共鳴イメージング）装置やX線CT（コンピュータ断層撮影）装置などの各種画像診断装置において、患者の体内をより精細に、より立体的に、よりリアルタイムに観察するための技術が開発されてきました。

しかし、ただ臨床的有用性に優れているからといって、その検査や装置が患者に負担を強いてはなりません。例えば、X線を使用する診断装置の最大の課題は被ばくのリスクですが、東芝メディカルシステムズ（株）は長年、各種の被ばく低減技術を開発してきました。その結果、診断装置及び検査によっては、同じ検査でも10年前と比較すると30%以下のレベルにまで被ばく低減ができるようになってきました。また、検査で使用する造影剤にも副作用のリスクがあります。当社は10年以上前から造影剤を使用しないMRI血管撮影技術を開発し、世界に先駆けて製品化しました。そして2010年に、その臨床的有効性を大規模検証するためのグローバルな臨床試験REACT（Renal Artery Contrast-free Trial）を開始しています。

一方、検査及び情報処理を行う医療関係者にとって、操作ミスを起こしにくく、かつ効率よく業務を行える装置のデザインと機能は不可欠です。また、病院ネットワークを院外に広げ、診療所などとの連携による診療効率の向上や、更に環境及び経済性の両面から、省電力や省スペースをはじめ、クラウドシステムを応用した低コストサービスなどのメリットがより強く求められるようになってきています。そして、血圧計及び体重計といった小型ヘルスケア機器からの各種情報を統合し関連付けすることにより、在宅ケアを向上させることが今後求められてきます。

当社は、医療の幅広いニーズと課題に応える医用ソリューションプロバイダーとして、当社のスローガン“Made for Life™”を目指した技術及び製品を提供することで世界中の医療に貢献してまいります。



内蔵 啓幸
KURA Hiroyuki